

母島

都心から南へ約1000km
青い海と深い森を抱える島

母島はどこにあるの？

位置：都心から南に1,033km
面積：19.88km²

アクセス

航路：竹芝－父島（小笠原海運）大型客船で約24時間 → 父島－母島（伊豆諸島開発）連絡船で約2時間

HAHAJIMA

OGASAWARA Islands

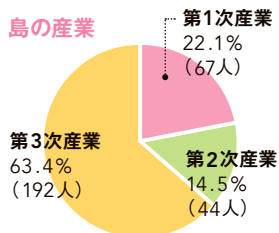


information

島の人々

人口：461人
世帯数：266世帯

島の産業



公共施設

医療機関：1
小学校：1
中学校：1

小笠原村の特産物

水産生鮮品：メカジキ、アカイセエビ、アカハタ、ハマダイ、ソデイカ

水産加工品：海塩、カメ煮込み、メカジキカレー

農林産生鮮品：パッションフルーツ、トマト、ミニトマト、マンゴー、レモン、コーヒー

農林産加工品：ハチミツ、酎ハイ（島レモン・パッションフルーツ）、ラム酒、ジャム、唐辛子加工品

工芸品：タコノ葉細工

小笠原村のシンボル

花：ムニンヒメツバキ

木：タコノキ

鳥：ハハジマメグロ

魚：アオムロ

父島から連絡船「ははじ丸」に乗船して母島までは約2時間。



※母島は行政上の区分では小笠原村に属します。



母島の自然

母島列島は父島より後の火山活動で誕生しました。小笠原諸島全体が珍しい地形・地質の宝庫ですが、母島でも随所に見ることが出来ます。国立公園の特別保護地区に指定されている石門^{イシド}一帯は、隆起カルスト地形という石灰岩特有の凹凸のある地形で、セキモンノキなど母島だけの固有種が生育しています。母島の南東にあたる御幸之浜^{ミキサキノハマ}から南京浜にかけての海辺の断崖では、大型有孔虫の化石である珍しい貨幣石が見られます。

また、母島を含めた小笠原諸島は一度も大陸と地続きになつたことがない場所であることから、小笠原ならではの生態系を観察することが出来ます。特別天然記念物で母島固有種の「ハジマメグロ」は島内のあらゆる場所で見かけることが出来ます。自然観察をする際は、小笠原の自然を壊さないように細

心・最善の注意が必要です。また、堺ヶ岳、石門は東京都認定ガイドの同行が必要となります。

有人島で一番早い初日の出

母島には、年間を通して多くの観光客が訪れています。海のレジャーは、海水浴に釣り、ドルフィンスイム、ホエールウォッチング、サンセットクルーズなどがあり、1999(平成11)年4月からダイビングも解禁されました。ハイキングコースも充実しており、山を楽しむ人も多くいます。

また、日本国内で一般の人が行ける場所のうち、一番早く初日の出を観られるのは母島です。人気ハイキングコースのひとつ、南崎の小富士からも初日の出を見ることが出来ます。

小笠原固有の蘚類
「ムニンシラガコケ」。



母島の地形と地質

石門

石門一帯は、隆起カルスト地形という石灰岩特有の凹凸のある地形で、原生的な森林形態を残した重要な地域です。母島だけの貴重な固有種が生育しており、入林には東京都認定ガイド同伴が義務付けられています。また、アカガシラカラスバトの繁殖期である10～2月の期間は入林禁止となっています。

御幸之浜と貨幣石

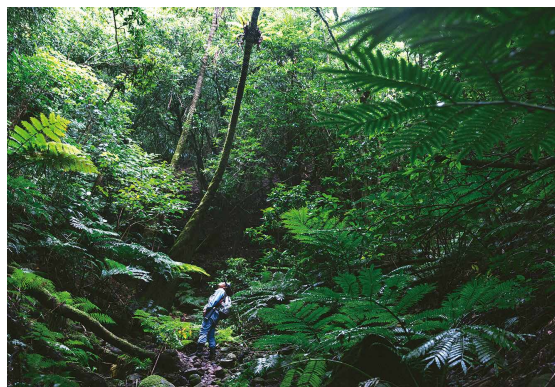
特別保護地区と海中公園になっている御幸之浜。



貨幣石という、大型有孔虫の珍しい化石。

御幸之浜の名称は、昭和天皇が1927（昭和2）年に訪れ、海洋生物のサンプルを収集されたことに由来しています。海岸では珍しい「貨幣石」という大型有孔虫の化石が見られ、小笠原諸島の地質年代を決定する指標となっています。

国立公園の特別保護地区に指定されている地域。



カルスト台地の石門。



石灰岩の風化でできるラビエ（針の岩）。

清見が岡鍾乳洞

ガジュマルの気根が垂れ下がり、洞窟探検気分が味わえる鍾乳洞。壁際にはカーテンといわれる鍾乳石の壁を見ることができます。



※見学希望者は母島観光協会に申込みが必要。



小富士の眼下に広がる南崎とテーブルサンゴ。

南崎から臨む小富士。

母島都道の最南端地帯から、遊歩道を歩くこと1時間の場所にある小富士は、日本最南端の富士ともいわれています。亜熱帯のジャングルを抜けた先に、広大な海と空が広がり、特に、頂上から眼下に広がる南崎の珊瑚礁は絶景です。



日本最南端の富士

母島で会える生きものたち



小笠原諸島には学術上貴重な野生生物が多く存在します。個体数が少ないなど、保護が必要な多数の動植物が天然記念物や絶滅危惧種に指定されており、世界中で母島列島にしか棲息していない「ハハジマメグロ」は特別天然記念物に指定されています。

← ハハジマメグロ（特別天然記念物）

メジロ科に属し、メジロよりひとまわり大きく、目の周りの逆三角形の黒い隈取りが特徴の鳥です。有人島では母島のみに生息する固有種で、特別天然記念物、絶滅危惧種の野鳥です。母島では、集落内で見かけることもあり身近な存在です。

ハハジマノボタン （固有種）→

7月頃に淡桃色の5弁の花をつけるノボタンの仲間です。母島の固有種で、乳房山・堺ヶ岳などで見られます。



ムラサキオカヤドカリ （天然記念物）→

ムラサキオカヤドカリは、ヤドカリですが野や山を歩き回り、産卵のときには山を下り海へ入ります。大きいもので15cmほどになります。



ムラサキオカヤドカリ保護を目的とした道路標識が随所に。



オガサワラオカモノアラガイ テンスジオカモノアラガイ （2種ともに天然記念物）

いずれも体長3cm程度で、テンスジオカモノアラガイは、比較的大きな殻を持っています。一方、オガサワラオカモノアラガイは、殻が小さく退化してナメクジ状になっています。父島では絶滅したと考えられていますが、母島では雨上りのツルダコの間で見るすることができます。



母島

H A H A J I M A



← オガサワラノスリ （天然記念物）

国の天然記念物にも指定されているタカ科の鳥です。小笠原固有で唯一の猛禽類で、体長は約50cm。

カツオドリ →

母島列島の南崎や鯉鳥島に生息している海鳥で、おがさわら丸やははしま丸の船上の近くまで飛んで来こともあります。



自然を守るための取り組み

アオウミガメ人工孵化場

小笠原諸島は日本最大のアオウミガメの産卵地。母島の脇浜なぎさ公園横の人工孵化場では、アオウミガメが産卵できるスペースがあります。



外来種対策

小笠原に外来種を侵入させないため、おがさわら丸とははしま丸に乗下船する際には、靴底の洗浄を行います。





海底熟成のラム

小笠原では、戦前サトウキビが栽培されていたことから、ラム酒が製造されていました。このラム酒を海底に沈め、熟成させたのが海底熟成ラムです。難破船から引き揚げられたワインが美味しくなったという事例を参考に、2014（平成26）年より「小笠原ラムを母島の海の底で熟成させる!」というプロジェクトが立ち上がり、製造・販売されています。小笠原村内の商店等で購入できるほか、約1年間海底に沈め、シリアルナンバーがついて届けられるラムオーナー制度もあります。

母島のミニトマト

温暖な気候を活かし農業が盛んな母島では、トマトの栽培も行われています。大玉のトマトは昔から栽培されていましたが、近年、ミニトマトも栽培されるようになり



ました。主に作られている「甘っこ」は、粘土質の赤土が多い母島の土壌でも育ち、その名の通り糖度が高く甘みがある品種です。

ミニトマトは通常5%程度の糖度ですが、母島のミニトマトは10%以上もあります。皮が厚く、噛むと甘さがふわっと口に広がり、しっかりとしたトマトの味わいを楽しめると評判です。母島で栽培されるミニトマトの旬は1～4月で、本土より一足早く旬の時期を迎えます。

小笠原の海開きとギョサン

ギョサンは、元々は小笠原の漁師が履いていた漁業者用のサンダルです。色や種類が多く、ファッションアイテムとして内地でも人気があります。ただ、父島と母島では違いがあり、硬めの作りの父島のギョサン（チチギョ）に対し、母島のギョサン（ハハギョ）はエンボス加工されているため柔らかな仕上がり。この柔らかさを好む漁師が、母島までわざわざ買いに行くこともあるそうです。ちょっとレアなレディースチチギョも在庫があれば購入可能。



元旦の海開きにはギョサンの飛距離を競う「ギョサン飛ばし大会」も開催。

ローズ記念館



母島特産のローズ石で作られた郷土資料館で、都の有形文化財に指定。ローズ石

は、耐熱性に優れ、加工もしやすく、戦前は石材として利用されていました。この建物は、大正時代には砂糖収納庫として、返還後は小笠原農業協同組合母島支店、母島簡易郵便局として使用され、1992（平成4）年に郷土資料館として開館しました。前庭にはローズ石製の石臼などが展示され、館内には明治時代のタコノ葉細工品などを展示しています。



母島でのダイビング。
夏はイルカ、冬はザトウクジラたちとの遭遇も。

静沢の森遊歩道入口付近にある夕日ポイント。



静沢の森遊歩道付近には、海軍施設跡、砲台なども残存。



巨大なガジュマルに包まれた神秘的な空間。ガジュマルにメガロの姿が見られることも。



貴重な動植物が見られるエリア。ガイドと一緒に登山を。



標高約463m。父島、母島を通した最高峰。



島内アクセス

乗合タクシー、レンタカー、レンタバイクあり

島の窓口



小笠原母島観光協会

〒100-2211
東京都小笠原村母島字元地



小笠原村産業観光課

〒100-2101
東京都小笠原村父島字西町

島めぐりコース

【1日目】

午後 母島・沖港に到着 → 観光協会にてガイドが必要なツアーなどに申し込む → 島内を散策

【2・3日目】

- ガイド同行で石門（塚ヶ岳、乳房山など）への景観を楽しむ
- 御幸之浜、南崎海岸の海辺を散策。小富士からの景観を楽しむ
- 新夕日ヶ丘やサンセットシアターで夕日を眺める

【4日目】

午前 北村小学校跡など島内を散策
午後 母島・沖港を出港 → 父島・二見港着